

授業科目 倫理とモラル

【担当教員名】 栗原 隆	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・義肢・健栄・スポ・社会・看護
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【概要・一般目標：G10】
人の生死が交差する医療の現場で、医療従事者が直面するであろう倫理的問題について紹介するとともに、問題の根元について考えてゆく。取り上げる題材は、安楽死、生殖医療、クローン技術、治療停止、人工妊娠中絶、医療資源の配分、病名告知など、重い問題ばかりである。そうした重大な問題に直面した時、医療従事者はどのように対処すべきなのか、また私たち市民はどのように理解すべきなのか、考察を深めて行きたい。

【学習目標】
生命倫理の諸問題について、いかにしてそうした問題が生じてきたのか、問題の根元を理解する。そのとき、技術で「できる」とこと、倫理的に「すべきこと」との乖離に想到するであろう。そうした問題に直面して、私たちがなすべきことについて、状況次第で、さまざまに人間の判断が変わるにせよ、どのように対処するのが倫理的であるのか、考察を深める。なお、留意すべきは、一面的で頑なな判断や思い込みではなく、ものごとを両面から考察して、自ら相反する判断を構成するなかで、妥当な判断を導き出すことができるよう、思考実験を繰り返したい。

回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	授業のガイダンス——規則を覚えることより、何が適切か、考えて判断する力が大切		
2	安楽死は認められるのか？		
3	障害新生児の治療停止は許されるのか？		
4	生殖補助医療の問題——AIDと精子バンク		
5	減数手術は許されるのか？		
6	代理母は許されるのか？		
7	出生前診断と選択的人工妊娠中絶		
8	医療資源の配分——どのような看護が平等な看護か？		
9	病名告知、もしくはインフォームド・コンセントの意義と限界		
10	脳死者からの臓器移植に問題はないか？		
11	再生医療とヒト・クローン産生の問題を考える		
12	「宗教上の理由」による治療拒否と愚行権		
13	安全と抑制——患者を拘束してはならない！		
14	共感とケアの倫理		
15	テストをします		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	看護のための生命倫理	小林亜津子	ナカニシヤ出版	2004・2,520円
参考書				
その他の資料				

【評価方法】 100点満点のテストで評価します。テストは、自筆のノート並びに配布資料のみ、「持ち込み可」です。	【履修上の留意点】 授業中の「私語」あるいは、いわゆる「内職」については、厳に慎んでください。生命倫理の問題を真剣に考えたい方の受講を望みます。 授業に際しては頻りに資料を配布します。覚えるだけでなく、考えていただくことを望みます。
--	--